


ひとはなぜ、写真を撮りたくなるのだろうか。



👉 タマちゃんのことを考えると、たとえば「かぐや姫」の話を思い出します。遠い世界からやってきて、みんなに愛されて。いつまでもいて欲しいけれど……という気持ち。私たちの先祖は、タマちゃんのような「漂泊者」を神様の使いと思い大切にしたり、ともいいます。そんな心情がいまも残っているのかもしれない。無理に引きとめはできないから、その姿を目に焼き付けようとした気持ちも、私たちには共感できます。もしも写真のある時代だったら、かぐや姫にはたくさんの写真が残されたことでしょう。ひとは、大切なもののイメージを大切にします。目に心に焼き付けたいことを、写真に残します。そして、それは神秘的なヒーローやヒロインに限られた話ではありません。たとえば、恋人や家族、日常のひとこまのなかにも、なにか「尊さ」を感じることがあります。ひとはそのときのイメージを心に刻み、できればカタチに残したいのだと思います。語り継がれる説話のことばも、私たちの個人的な映像も、そんなイメージの入れものであることは同じです。昔と違うのは、伝わるスピード。タマちゃんのイメージは、瞬く間に日本中に広がりました。それがImaging & Information、映像と情報の力です。でもやっぱり、タマちゃんだったら、自分で「写真」を撮って、持っていたいと思うのですよね。

👉 ことばを越えたコミュニケーション、imageの時代へ。フジフィルムは「imageを科学する」世界のフロンティアとして、これからも進みます。

V
O
L.
15

 **FUJIFILM**
I&I-Imaging & Information
www.fujifilm.co.jp

imageする会社。 **FUJIFILM**